

その9 田宮

(平成6年2月1日号—第168号)

京阪枚方市駅から南へ歩いて行くと、市役所を過ぎたあたりから、今回ご紹介する田宮地区に入ります。田宮の地名は、応神天皇の皇子である二俣王[ふたまたのみこ]の王女田宮姫が住まいを定めたところからきたとされています。

旧の田宮村は、交野郡に属し、『和名鈔』[わみょうしょう]という文献には交野郡田宮郷という記述が残されています。古くは、田宮千軒といわれ繁栄した時代もあったそうですが、江戸時代にはわずかな戸数に減少しています。

田宮地区やその周辺の開発は、昭和4年の京阪電鉄による住宅開発から始まりました。同年、信貴生駒電鉄(現京阪交野線)の枚方東口(同枚方市駅)と私市間が開通。昭和17年、枚方町役場が三矢から岡に移転し、同35年には現在の大垣内町に市役所が建設されるなど、市の中心が東に移るにつれて、田宮地区は開発の適地として重要視され、田畑が次々と新興住宅地になっていきました。

現在では、昭和44年からこの地区で進められていた中部土地区画整理事業も完成し、枚方高田線沿いに店舗等が建ち並んでいますが、田宮本町にある浄光寺のあたりには寺を囲んで旧家がひっそりと建ち、かつての村民たちが、農耕を主として営々と生活を営んでいた様子をうかがい知ることができます。



14 田宮本町(正面が浄光寺)